

目次

ハザードマップの使い方	1ページ
索引図	3ページ
多摩川・浅川・大栗川ハザードマップ	5ページ
洪水(大栗川・乞田川)・内水氾濫・土砂災害ハザードマップ	7ページ
洪水・土砂災害に備えて	27ページ
避難行動について	30ページ
災害関連情報について	裏表紙

ハザードマップの使い方

1 自宅の位置を確認しよう

自宅の場所をマップに書き込みましょう。



2 お住まいの地域がどのような災害の危険性があるか確認しよう

大雨、台風の際はどの河川の氾濫により、自宅が浸水する可能性があるか、また土砂災害で被害のおそれがないか、確認しましょう。(2ページへ)

3 とるべき避難行動や避難所の位置を確認しよう

とるべき避難行動を確認しましょう。(30ページへ)

4 自宅周辺の危険箇所をチェックしながら実際に歩いてみよう(避難経路の確認)

蓋が開いている用水路がないか、倒れそうなものや落ちてきそうなものがないかなど、安全な経路を検討しましょう。

※昼間、夜間と時間帯をわけて確認しておくことも大切です！
 ※避難にかかる時間を計算し、避難行動を開始するタイミングを検討しましょう。



5 家族と災害や避難について話し合い、マイ・タイムラインを作成しよう

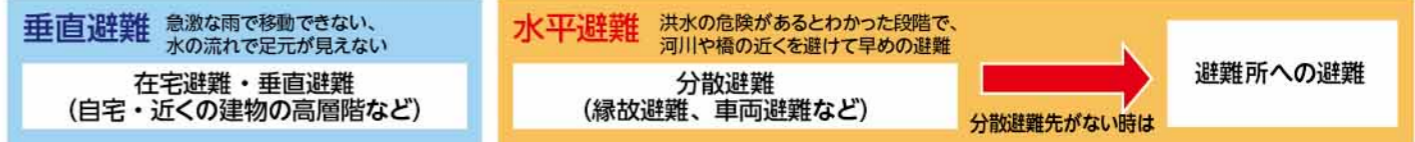
- ★家族だけでなく、地域の方々、職場の方々と情報を共有しましょう。(12ページ)
- ★災害時の連絡手段を確認しましょう。(18ページ)
- ★いざという時に備えて防災情報を登録しましょう。(裏表紙)



自宅が危険区域にあるか確認しましょう。
 あてはまるものがない場合は、原則、在宅避難です。

区域名	想定の色	避難方法	
想定浸水深	5.0m~	2階の天井以上まで浸水するおそれがある 4階以上に避難できる → 垂直避難 できない → 水平避難	
	3.0m~5.0m未満	1階の天井から2階の天井近くまで浸水するおそれがある 3階以上に避難できる → 垂直避難 できない → 水平避難	
	0.5m~3.0m未満	1階の床から1階の天井まで浸水するおそれがある 2階以上に避難できる → 垂直避難 できない → 水平避難	
	0m~0.5m未満	1階の床下まで浸水するおそれがある	
家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)	河川の激しい流れにより、河岸が削られ土地が流出し、家屋が流失・倒壊するおそれのある区域	→ 水平避難	
家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)	堤防が決壊し、河川から流れこむ水の力により、家屋が流失・倒壊するおそれのある区域	鉄筋コンクリート造 → 垂直避難 鉄筋コンクリート造以外 → 水平避難	
※ 急傾斜地崩壊危険区域	崩壊する危険のある急傾斜地		
※ 急傾斜地の崩壊(かけ崩れ)	大雨などによって急激に斜面が崩れ落ちるおそれがある区域	土砂災害警戒区域 土砂災害特別警戒区域	鉄筋コンクリート造で3階以上に避難できる → 垂直避難 できない → 水平避難
	※ 土石流	土砂が大雨の影響で下方へ一気に押し流される可能性がある区域	

※詳しい内容は7ページ



雨の降り方や土地の形状によっては、浸水想定をしている深さが実際の深さと異なる場合があります。また、浸水想定がない区域でも洪水や土砂災害が発生する場合がありますため、十分に注意してください。